

### III-4 国際関係

#### (1) 研究仮説

世界が急激に変化していく中、これからの社会を担っていく高校生に、日本に留まらず世界へと視野を広く持ってほしい。①英語によるプレゼンテーション法を学ぶことや、②様々な国の方々と相互文化紹介、③海外の高校生との協働課題研究、④英語運用能力向上のための短期集中プログラムは、コミュニケーション能力の重要性を感じるとともに、他言語・他文化についての理解を深め、国際感覚を養うことができるであろう。

#### (2) 各実践と評価

##### ① 英語プレゼンテーション講座

ア 実施日時：令和4年11月4日（木）9:40～12:45

イ 実施場所：本校飛龍館2階

ウ 参加生徒：SSクラス37名

エ 実施内容：

有限会社インスパイアの副代表であるヴィアヘラー幸代先生に講師をお願いし、実際に全員が前に出て英語によるプレゼンテーションを行い、1人1人に対して指導をしていただいた。

オ 評価

【参加生徒の感想（一部抜粋）】

・偶然にも翌日に英語で研究発表を行う機会があり、今回指導されたアイコンタクトやジェスチャーがとても役立ち、自分の生涯のスキルになったと思う。テストのための英語だけでなく、今回のような生きた英語を使えるようになりたい。

・学んだこと全てが新しく、英語だけでなく、日本語や他の言語でも応用できる凄いスキルだ。今後も相手に自分の伝えたいことがよりよく伝わるようなスピーチを目指して活かしていきたい。

カ 考察

「生涯のスキル」になると感じた生徒が多く、このスキルを学ぶことで、人に伝えたいことをより分かりやすく伝えることの「楽しさ」を感じたようだ。「スキル」という言葉を生徒は使っているが、例えば「質問のある人はいますか？」ではなく、必ず「どんな質問をお持ちですか？」と聞くなど、生徒達に「問う力」の本質を教えてくれる講座であったと思われる。

キ 今後の課題

普段の授業中にこういったデリバリーの部分を指導することはなかなか難しい。せっかくのスキルを身につけさせるためには早い段階でこういった講座を設け、発表の機会を定期的に設定し、繰り返しスキルを使う機会を与え続ける必要がある。



##### ② レインボー国際交流

ア 実施日時：令和5年2月13日（木）13:30～15:35 実施予定

イ 実施場所：1年生各教室

ウ 参加生徒：1年生全員239名

エ 実施内容：

JICAから様々な国の研修生12人を招き、各教室に分かれて文化紹介・質疑応答を行う。その後、本校生徒も日本文化の紹介を行い、質疑応答を行う。

##### ③ 国際共同課題研究

ア 実施日時：令和4年6月～令和5年2月  
毎週日曜日、20時～21時

イ 実施場所：2年C組教室及び各家庭

ウ 参加生徒：SSクラス4名



エ 実施内容：

立命館高校より声をかけていただき参加。本校はフィリピン科学高校の学生 3 名と週 1 回日曜日の夜に Zoom によるミーティングを行いながら、「サトイモの病気を診断するアプリの開発」という共同研究を行った。1 月 28 日には、参加者全員により英語による発表会がオンラインで行われた。

オ 評価

【参加生徒の感想（一部抜粋）】

今まで共同研究と言っても海外の方たちとやったことがなかったので英語が通じるか、仲良くなるか、ちゃんと出来るかなど様々な不安がありましたが、いざやってみると想像以上にうまく物事が進み嬉しく思っています。また、共同研究を通して、今まで日本だけで考えていた問題に海外の方の視点が加わることで今までにはなかった考え方などが出てきて自分たちにとっても良い勉強になったと思います

カ 考察

「たくましい科学人材の育成」という言葉がふさわしい実践である。最初は教員が主導しないと全く進まない状態だったが、夏休みを過ぎてからは、進行も生徒達だけで全て行い、教員なしでも生徒達だけでミーティングは進められるようになった。本校生徒達も英語の準備を良く行うようになり、英語の聞き取りに慣れ、相手も分かりやすい英語で話してくれるようになった。

キ 今後の課題

研究テーマを海外の生徒と決めるのが難しい。今回は既にスライドを作り、先行研究も調べ、かなり準備がされていた相手の提案を受け入れる形となった。本当に自分たちがやりたかった研究があるのであれば、相手を説得できるだけの準備をして初回のミーティングに臨む必要がある。

#### ④ 竜ーイングリッシュブートキャンプ

ア 実施日時：令和 4 年 8 月 1 日（月）

～令和 4 年 8 月 2 日（火）9:00～16:30

イ 実施場所：1 年 D 組教室

ウ 参加生徒：中学 3 年～高校 2 年生徒 28 名

エ 実施内容：

県内の ALT9 名に集まってもらい、9 グループに分かれて、様々な英語による会話練習を行う。部屋の中では日本語禁止のルールとし、徹底した英語漬けの環境を提供した。

オ 評価

【参加生徒・ALT の感想（一部抜粋）】

・たくさんの ALT の先生方や他学年の生徒と交流することで、自身の英語力について自信が付き、間違いを恐れずに発言することができるようになりました。英検の面接試験などでも活きる内容も多くて、とてもよかったと思っています。

・During the boot camp, students were able to engage in close conversation with multiple native English speakers of diverse backgrounds. Conversation involved both formal classroom-style English and casual daily-life use of English. Activities that simulated language proficiency tests and formal debate developed the student's ability to incorporate the material they learned in their normal English classes. Conversational activities encouraged students to practice English in a more comfortable setting and learn conversational phrases or more common ways to express certain things.

カ 考察

事前の打ち合わせ時間の確保が困難であったため、授業中の説明となりミニディベートの経験がなく戸惑った ALT がいたが、概ね全てのメニューはスムーズに進んだ。ネイティブ 9 名を集めてこの企画の効果は達成感もあり素晴らしいものがあると感じられた。トレーニングメニューについては、教員自身が研修してさらにバリエーションを増やしていきたい。

キ 今後の課題

コロナの状況次第だが、以前のように筑波山のホテルにて 2 泊 3 日で実施し朝から寝る時間まで英語漬けとし英語でガイドしながら ALT と神社参拝等も実施できると更に効果があると思われる。

